

~~UNMANNED~~

無人駅の芸術祭 / 大井川

Unmanned Station Art Festival, OIGAWA 2018

開催ドキュメント 2018

Unmanned Official Document

清水陽介

1974年生まれ。静岡県島田市出身。島田市在住。
22歳から絵を描き始める。「Gallery be one」(京橋／1998)、「渋谷アートラボ」(東京／2005)、「ART あんえっこん」(静岡県焼津市／2017)、「無人駅アートルネッサンス」(静岡県島田市／2016) など参加多数。



『ゴカク』

作品設置駅 五和駅

五和駅は、地元コミュニティの方々が季節に応じたおもてなしの取組を行う無人駅。この時期は「合格駅」として受験合格祈願の仕掛けを様々に行っている。この元々の取組をアートの表現でさらに後押ししようと、五角形の木製の板に清水独特のカラフルなドット(点)を描き駅舎に散りばめる。ドットの下には様々な漢字一文字が潜む。魂を込めるように何万ものドットを打ち込み、コミュニティの温かな取組をさらに昇華させる試み。

『花 蛇 スケガラ』

作品設置駅 福用駅

その昔氾濫する大井川を鎮めたのは大井神社におまつりされている白蛇だったという伝説がある。うねうねと蛇行して流れる大井川全体もまた、大蛇のようにも見える。福用駅の一室を地元の方に譲り受けた茶袋で表現した蛇の部屋とし、蛇を高貴な存在として迎え入れるために駅舎全体を花で飾った。福用駅にやってきた蛇は大井川の化身であり氾濫を鎮める鎮魂の象徴である。自然への畏敬の念と生活に寄り添い続ける大井川の変化を感じる作品。

五和駅

清水陽介

神尾駅

さとうりさ

さとうりさ



『地蔵まえ』

作品設置駅 神尾駅

アート作品は、会期終了とともに場から姿を消す。一方、地蔵は人々の思いを飲みこみ、いつからかその場で存在し続ける。「パブリックアートはお地蔵さんにはなれないのか。」自身が制作表現の中で日々抱える矛盾を、秘境駅とも呼ばれる神尾駅で表現する。奇しくも神尾駅周辺は地元の人に「地蔵峠」と呼ばれ交通の難所であった。また、島田市金谷地区の志戸呂焼の陶土を100%使用した、さとう初の陶芸作品。ユーモラスにも不気味にも見える独特のフォルムの裏にある“怪び” た味わいと、幻想的な神尾駅のコントラストを体感したい。



木村健世



アートユニット「フタボンコ」を結成。「まち」をフィールドにプロジェクトを手がける。2008年より個人名義で活動。「ある視点」で2001年「代官山インスタレーション」グランプリ受賞をはじめ、「越後妻有アートリエンナーレ」(新潟県／2003・2006)、「水と土の芸術祭」(新潟県／2009) など多数参加。近年は街を「文庫」として捉えるプロジェクトを多数手がけている。



『無人駅文庫』

作品設置駅 福用駅

街を“文庫”として捉える。街の有する姿や時間、空気までも1冊の文庫本に閉じ込める、という木村のライフワークとも言える仕掛けが、今回は「無人駅」という特異な場所で展開された。約1ヶ月をかけ、福用駅にまつわるストーリーを持つ人々の声を聞き、駅にまつわる大切な思い出や記憶、日常生活に潜む豊かさをひも解く。手に取ったあなたとの交流も作品の一部。目の前の景色と、いくつかのストーリーと、あなた自身を重ねてみることで、オリジナルの体験を味わえるだろう。

木村健世

福用駅

しでかすおともだち

清水陽介

島田慎太郎 小柳津直二

島田慎太郎
1981年生まれ。静岡県焼津市出身。島田市在住。建築家。+DArchitects代表。建築家としての活動だけでなく里山保全活動も積極的に行う。「無人駅アートルネッサンス」(静岡県島田市／2016)



小柳津直二
造園という生業を通して『竹』という素材の魅力に触れる。「夜の茶会を演出する」という依頼をきっかけに、各地で作品を出版。藤枝市を中心に活動。

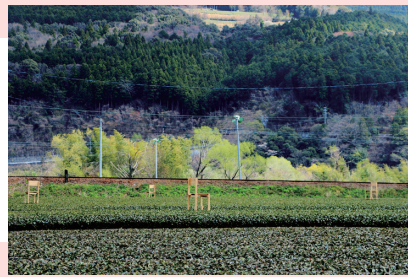
『やどる』

作品設置駅 抜里駅

『やどる』とは、侵入し、とどまる。同時に、新しい命が生まれるという意味も含む。古今和歌集では「木にもあらず草にもあらずのよの、端にわが身はなりぬべらなり」と詠まれた。木でもなく、草でもない不思議な植物である『竹』は、古来より私たちの暮らしに密接に関わってきた。しかし今、竹は暮らしの中から姿を消した。その結果、里山の竹林は放置され、生態系が荒れている現実がある。現代人の心のように…。現代では、蜘蛛の巣のようながんじがらめの固定観念や、便利さの裏側にある窮屈さを抱えて誰もが生きている。だがしかし、我々の生活に古から根ざした竹で編む蜘蛛の巣のような作品には不思議な生命力と新たな精神がやどっているかもしれない。とどまり、生まれる。静止と再生の過程を味わう作品。



Hidemi Nishida



『隠された人々』

作品設置駅 抜里駅舎 (映像作品)、駅前の茶畑 (インスタレーション)

複数回にわたる当地域でのリサーチを重ねてNishida自身が一番に感じたことは自然と人との境界にうごめく「見えざるもの」の存在であったという。それらを、アイスランドに伝わる妖精フルドゥ・ドルク (隠された人々) の伝説をモチーフに映像とインスタレーションで表現。映像では大井川の美しい風景のなかでその流域の記憶をたどる。撮影には様々な世代の地元有志40名が参加した。外界と人間という現代において薄れつつある関係性は、この無人駅エリアでは今もクリアで、豊かなものとして体感できるのではないだろうか。



北海道小樽市出身。ノルウェー王国国立ベルゲン芸術大学修士課程修了。「Lexus Hybrid Art 2013」(ロシアモスクワ/2013)、「By the mountain path」(英国ロンドン/2015)や、「光州ビエンナーレ2014」(韓国光州/2014)、「札幌国際芸術祭2014」(札幌/2014)をはじめ、様々な国、場所、環境でインスタレーションを展開する。

家山駅

島田慎太郎・小柳津直二

抜里駅

Hidemi Nishida

夏池篤

川根温泉
笹間渡駅

夏池篤



三重県生まれ。愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。「現代日本美術展」(東京/1985)、「ナメディ城野外美術展」(ドイツ/2005)、「韓・中・独・日 国際交流展」(済州西帰浦芸術の殿堂美術館、韓国/2016)、かけがわ茶エンナーレ (静岡県掛川市/2017) 他、展覧会参加多数。



『森のコースター2』

作品設置駅 川根温泉笹間渡駅

鉄道とは、どこに何を運ぶのか。目的地への移動手段としてだけでなく、まだ見ぬ楽園へ誘われる錯覚を感じる瞬間が誰にでもある。そして実際に出会いや別れ、感情や夢も運んでいく。かつて木都島田と呼ばれ、木材運搬の歴史を担った大井川鉄道。その無人駅から引き込まれるように設置された木製の線路とトロッコ。本線から離れ、山の奥へと続いてゆく線路は、森の動物たちと一緒に森へと旅する光景を想像させる。

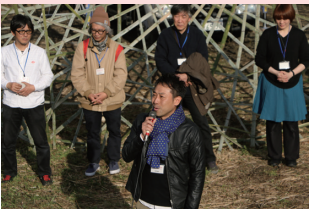


期間中イベント & 作品制作ワークショップ等

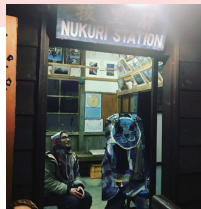
作品鑑賞ツアー
(3月9日/プレス&関係者)



オープニングセレモニー&交流会
(3月9日/抜里駅及びヌクリハウス)



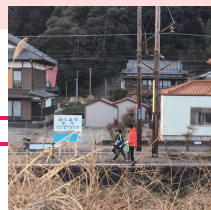
しでかすおともだち出発パフォーマンス
(3月25日/新金谷駅、代官町駅、家山駅、笹間渡駅)



島田慎太郎・小柳津直仁「やどる」竹伐採
(3月22日/抜里駅)



木村健世「無人駅文庫」作品制作取材
(2月中旬〜下旬/福用駅)



Hidemi Nishida「隠された人々」映像制作
(2月11日/神尾駅周辺、抜里駅、笹間渡駅周辺)



講座『北川フラムさんに聞くアートで開く地域の可能性』(3月16日/地域交流センター歩歩路)



晴れたらボタリング(3月17日/抜里駅、福用駅、神尾駅、日切駅を自転車でアート巡り)



関連イベント & 講座

滞在制作を通じた
集落との交流



振り返って：

アートによる

地域づくりの可能性の先に見えるものとは。

UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川が閉幕し、大井川鉄道の8つの無人駅はまた普段の通常運転がはじまっています。異界の先のワンダーランドは豊かに暮らす人々と共にひっそりとそこに在り続けています。

今回の取り組みの中、我々がアートによる地域づくりの可能性を感じたのは、17日間の「芸術祭」というハレの舞台だけでなく、アーティストによる滞在制作があげられます。

本芸術祭に向け、2月初旬から1ヶ月にわたってアーティスト達が抜里地区の空き家（ヌクリハウス）で滞在制作を行いました。その中で様々なドラマや、アーティストと地域の化学反応が見られました。

普段、仕事上の人間関係は名刺交換から始まり、肩書や学歴から関係値が決まっています。ですが、集落のみなさんとアーティストの関係は名刺も肩書も全くいらず、困っていれば助ける、協力する、作品プランと一緒に面白い、そして一緒に飲み食いする。こういったいわば原始からの最も基本的な人間関係により、素敵な作品が次々に生まれて行きました。

我々はこの取り組みの中で「無人駅を美術館にしたいのではない」ということを一番に考えてきました。作品を設置するだけでは、集落と作品の化学反応は生まれません。言い換えればどこでやっても同じです。8組のアーティストが、関わりや綿密なリサーチの中で生み落としてくれた作品だからこそ、滞在の中で感じたものを息吹として作品に吹き込んでくれたからこそ、来訪者も楽しんでくれたと思います。

世界的な芸術祭を数多く手掛ける北川フラム氏は、美術をこう言い表します。「美術は“美しい術”と書いてあるのが間違い。僕が考える美術は、自然、文明、場所に対して、人間がその上に住んでいるものとの関係を表す技術だと思う。」

私達も地域づくりを進める側の人間として同じように感じます。だからこそ「アートによる地域づくり」の可能性を信じています。UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川にお越しくくださった皆さま、関わっていただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。

無人駅の先のワンダーランドへの旅はいかがでしたでしょうか。アートを道しるべに、豊かな人達の暮らすワンダーランドの入り口を次回も開いていきたいと思っていますのでどうぞお楽しみに。

NPO 法人クロスメディアしまだ

大石歩真、兒玉絵美

お問い合わせ：NPO 法人クロスメディアしまだ

〒427-0029 静岡県島田市日之出町2-3

TEL & FAX: 0547-35-0018 E-mail: seminar@cms.or.jp

最新情報はfacebookで **UNMANNED** を検索



静岡県文化プログラム

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、オリンピック憲章で開催が定められた「文化プログラム」が、日本全国で開催されます。静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興や文化・芸術による地域・社会課題対応を目指して、様々な団体等との協働による取組を進めています。